わかさ 議会だより

平成23年５月

第136号

３月定例会

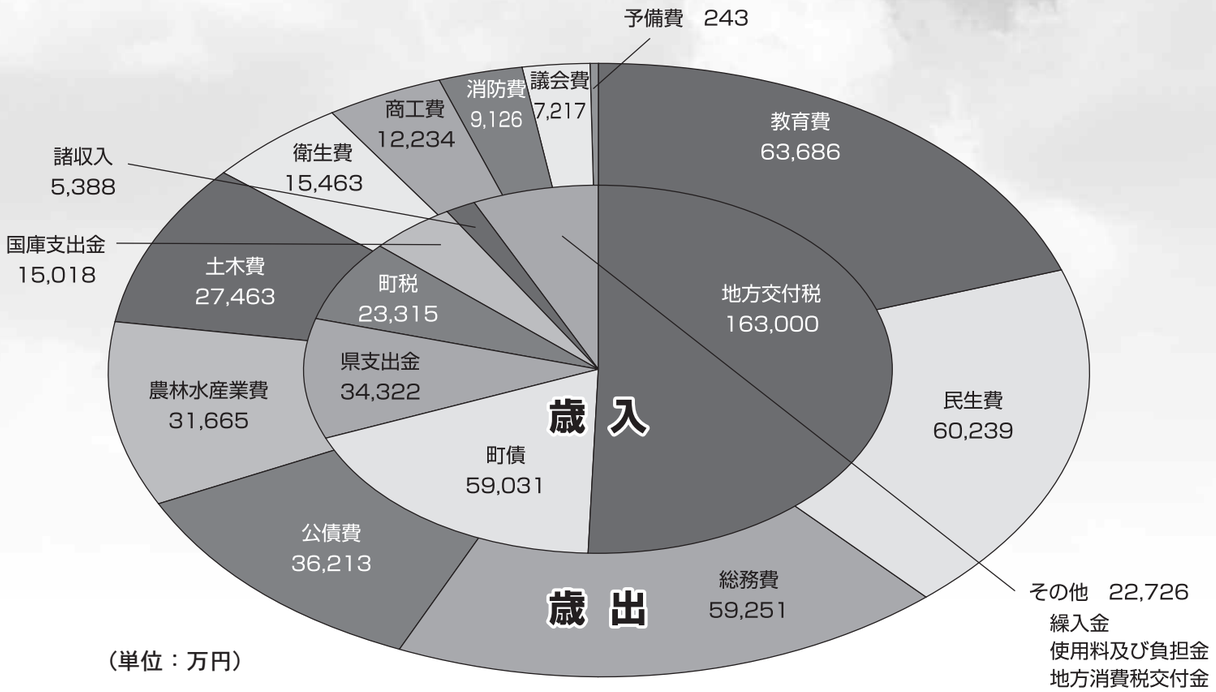
P.２～５　平成23年度当初予算可決、予算審査Ｑ＆Ａ
P.６～７　３月議会定例会提出議案
P.８～13　一般質問Ｑ＆Ａ、陳情審査
P.14～15　委員会活動報告
P.16　わたしの想い（梶原さん、河村さん）

写真：不動院岩屋堂「春の大祭」護摩供の様子

平成23年度 当初予算可決　学校施設整備に着手！

一般会計　32億2,800万円　前年比５億2,800万円(19.6％) 増額

※主な事業を記載



（単位：万円）

総務費
- 若桜鉄道対策事業…… 8,191万円
- 若桜町地域情報通信基盤施設…… 2,615万円
- バス運行事業…… 2,601万円
- 町有林管理…… 1,082万円
- 情報ネットワーク事業(地域イントラネット)…… 926万円
- 若桜鉄道存続対策事業…… 758万円

民生費
- 児童措置（子ども手当等）…… 5,203万円
- 特別医療費支給事業…… 2,703万円
- 障がい者福祉事業…… 1,783万円
- 敬老事業…… 459万円
- 地域支え合い体制づくり事業(見守りネットワーク事業)… 378万円

衛生費
- 塵芥処理対策事業…… 5,950万円
- 予防費（インフルエンザ・子宮頸がん等）… 1,354万円
- 健康増進事業…… 847万円

農林水産業費
- 森林整備事業…… 3,750万円
- 有害鳥獣駆除対策費…… 944万円
- 活性化施設管理運営事業…… 866万円
- 農村整備事業…… 696万円
- チャレンジプラン支援事業…… 473万円
- 水田営農活性化対策事業…… 400万円

商工費
- 商工振興事業（休憩所整備等）…… 5,113万円
- 観光事業費（観光協会補助金等）…… 3,910万円
- 氷ノ山集客促進事業…… 1,428万円

土木費
- 町道新設改良事業…… 5,380万円
- 道路維持費…… 4,293万円
- 町営住宅管理事業…… 716万円
- 中之島公園管理事業…… 685万円

消防費
- 東部広域行政管理組合負担金…… 7,231万円
- 非常備消防費…… 901万円
- 災害対策事業…… 489万円

教育費
- 小中一貫校整備事業…… 3億6,113万円
- 生涯学習情報館運営事業…… 1,888万円
- 温水プール管理…… 1,758万円
- 分校管理費…… 1,248万円
- 給食センター運営費…… 1,125万円
- 通学対策事業…… 440万円

予算審査

議員全員で構成する「予算審査特別委員会」を設置して審査しました。

主なる意見

一般会計

歳出について

○地方自治推進費
住民基本条例は、平成23年度制定に向け努力されたい。

○広報費
広報わかさは、統一性（ページ構成）、文字の大きさ等、紙面の創意工夫を行い、住民にわかりやすく親しまれる紙面づくりをされたい。

○まち並みづくり推進事業
まち並みづくりは、複数の課が関係していることが多く、各課が連携を取って施策を実施されたい。

○若桜町地域情報通信基盤事業
IP告知端末を使用した様々な運用が考えられているが、専門職員の配置を活かし、速やかな有効活用を図られたい。

○若桜鉄道対策事業
客車誘致については、町民や沿線住民との連携が必要である。そのためにも、しっかりとした情報提供をされたい。

○ゆはら温泉運営事業
地元利用者を増やすためには、開館時間の見直しやくつろげる工夫をされたい。

○有害鳥獣駆除対策費
防止柵の効果を上げるためには、地域を挙げて取り組む施策をされたい。

○観光事業費
観光客を受け入れる体制の整備、地元にお金が落ちる仕掛けづくりのため、観光協会事務局長を配置されるが、観光協会の組織改革と自立した運営に力を注がれたい。

○商工振興事業
休憩所とおもちゃ館整備の事業主体は商工会だが、管理運営の仕組みをしっかりと構築するよう指導されたい。また、補助金に頼らない運用を強く望む。

○分校管理費
吉川分校の改修は、都市交流等の将来構想の一環であるが、使用方法も考慮しながら地元との連携を図られたい。

○小中一貫校整備事業
この事業は、様々な理由により全体的な計画の遅れがみられる。工程表を速やかに作成し、平成24年4月開校に向けて一層努力をされたい。

○公民館管理費
教育委員会事務局の移転に伴う、若桜町公民館・わかさ生涯学習情報館の運用にあたっては、適正な職員配置を十分考慮されたい。

○郷土文化の里管理費
この費用は、建物の維持管理のみに偏っており、施設を利用した木の町としての取り組みが伺えない。条例に沿った活用をされたい。

特別会計

歳出について

○国民健康保険事業
被保険者一人当たりの税額は、全県的に中ほどより少し上だが、所得が低い本町では負担感が大きい。必要額を確保するために税率を上げるのではなく、予防に重点を置き、給付費を下げる施策に取り組まれたい。

○介護保険事業
高齢化によって、この会計が今以上に悪化することが予測される。今から介護予防に重点を置いた施策に取り組まれたい。

○簡易水道事業・公共下水道事業・農業集落排水事業
上下水道事業経営懇話会の設置が、いまだなされていないので、職員の意識改革も含め早急に取り組まれたい。また、接続率アップのためにも条例に沿った取り組みをされたい。

○索道事業
スキーリフトの索輪交換は、専門業者と協議し、安価な施工方法を検討されたい。

予算審査Q&A

予算審査特別委員会（3/14～22）で議員からの主な質問、疑問及びそれに対する執行部の回答を紹介します。

Q　バス利用に関する町民アンケートを取っているが、他町では高齢者、福祉対策ということで乗車料金を安くされている。
今後、どのように見直しされるのか。

A　バス料金を下げれば利用収入が減る。
現在アンケート調査を集計して、7月1日を目標に料金等の見直しを行いたい。

更なる利用が望まれる町営バス

Q　吉川ＹＹＣが武蔵野市に行く費用は、どの様になっているのか。

A　人材育成事業で考えている。

Q　まちづくりの整備計画では、どの様な構想を描いているのか。話し合いの場がないと連携が取れないのでは。

A　国土交通省の補助事業による整備を、産業観光課では進めている。
教育委員会では登録文化財への指定を考えている。課を越えた連携が必要だと思う。

Q　ＩＰ告知端末は、無料電話や情報提供以外、新しい利用計画があるのか。

A　まずは、無料電話と情報の提供をしていく。
安否確認のため、独居老人宅等への定時電話を考えている。
他にも緊急通報、物品販売、バス情報等、幅広い利用を考えている。

Q　シルバー人材センターは、23年度中に設立予定だが、構想がはっきりしていない。
設立は、第三セクター型、民間型。法人化に向け、収支の見通しは。

A　社会福祉協議会が5人の方と接触している。
まずは、組織をつくり、法人化を目指したい。連盟からの補助金で、対応したい。

Q　小児の肺炎球菌、ヒブワクチンは、死亡例が出て、中止になっている。
3月に厚生労働省の通知後、行政としての周知方法は。また、4回が3回になった場合、免疫は持続するのか。

A　厚生労働省から東部医師会へ中止の連絡があった。
一般的に、回数ができればいいが、特例ではっきりしない。今回は国庫補助だが、任意接種であるので町側に責任はない。
ヒブワクチンは延べ21回で、同時接種可能だ。

Q　不妊治療の助成はあるが、不育治療は、どうなのか。

A　県の補助事業の上乗せで、県の助成事業の対象者のみである。

Q　塵芥処理委託料の適正化が必要と考える。
昨年度の委託料と変わらないが、交渉経過はどうなのか。

A　燃料代も高騰している。増額要求もあったが今回も据え置きにしている。

Q　耕作放棄地対策で50ａ見ているが、再生後耕作するのか。
米の作付け割当てが減るようだが、町の農業政策方針はどうなのか。

A　予算は不特定で計上している。5年間農地として使用しなければいけない。1年目は抜根、2年目は作付けをして、最低4年間の利用権設定が条件である。
町では、加工米栽培を奨励する。

Q　森づくり作業道の12路線は、どこなのか。

A　吉川2路線、糸白見5路線、落折2路線、岩屋堂1路線、中原1路線、コギ谷1路線。

Q　緊急雇用、ふるさと雇用の3年間は、国が地域に雇用をうむための施策である。
4年目も続ける前提の補助だと思うが、現場で必要なら、人員を配置すべきでないのか。

A　緊急雇用は、町が直接雇用し、ふるさと雇用は、団体への委託料で雇用する制度である。
3年間で会社の業務体系を創るというのが国の方針であるが、必ずできるとは限らない。今までどおり委託料を払えるかどうかが問題で、必要最小限のものになると思う。

Q　河川の中に、大きな木がある。住宅の近くに生えた木は、防災面から伐採した方がよい。行政の考えはどうなのか。

A　治水という観点から、県に伐採等を要望しているが、全て要望が通るとは限らない。
行政の手が届かない部分は、今回創設した事業でやれると考えている。
河川に関心を持って欲しいという思いもある。

増水時危険な雑木

Q　水道石綿管取り替え工事の全体計画は。

A　28年度まで石綿管工事の計画がある。年間2千万円位の工事費を計上して進めたい。
諸鹿、渕見、小船、若桜が残っている。

Q　国保税は、県下で高いレベルになっていないか。一人当たりの減免前の額ではどうか。

A　22年度を計算して出した。若桜町は一人当り106,765円である。

Q　小中一貫校建設費は、県費加算がないのか。

A　県費加算はない。
学校の、児童生徒数で規模を計算し、その規模の建築費をもとに補助金が交付される。
木造にしても、最大15万円弱／㎡である。

Q　特別支援教育総合推進事業での、発達、精神、知的障がいの対象人数は。
また、体制整備については、どのような考えなのか。

A　幼稚園、保育所、小学校の連携が主である。
住民との連携では講習会を開いている。来年度は小学校7名、中学校6名である。

Q　入学祝金を創設した理由を聞きたい。
保育所、幼稚園にはないが。

A　同和対策事業だったものを、一般対策とした。
また、義務教育段階での子育て支援として行う。

Q　公民館に移転する教育委員会の思いはどうなのか。町長の指示か、教育委員会の判断なのか。

A　庁舎も手狭になる事から教育委員会が公民館に出ることになった。生涯学習の拠点にもなると考えている。

生涯学習の拠点に

3月議会定例会提出議案

平成23年第2回若桜町議会定例会は、3月10日に招集され、町長から提出された議案30件、議員提出議案1件、町として東日本大震災義援金を贈る等の追加議案1件を慎重審議の結果、全議案を可決し、3月24日に閉会しました。

条例

◆若桜町地域公共交通維持確保基金条例の制定

地域公共交通の維持確保を図るため、若桜町地域公共交通維持確保基金を設置する。

◆若桜町幼児教育推進基金条例の制定

幼児教育の充実と推進を図るため、基金を設置する。

◆若桜町職員の職務に専念する義務の特例に関する条例の一部改正

職員団体（組合活動）に係る職務専念義務の免除に関し、見直しをする。

◆若桜町職員の給与に関する条例の一部改正

特地勤務手当の廃止及び、職員又は支払先の申出により町長が認めたときは、給与支給する際、給与控除して当該支払先に払い込むことができる。

◆若桜鉄道株式会社が所有し、使用する固定資産に対する固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正

課税免除の適用期間を、引き続き平成23年度から平成25年度までとする。

◆若桜町国民健康保険条例の一部改正

被保険者が出産したときは、当該被保険者の属する世帯の世帯主に対し、出産育児一時金として39万円を支給する。

（35万円→39万円）

予算

◎平成23年度一般会計予算

◎平成23年度特別会計予算（10事業）

予算審査特別委員会（委員長　川上　守）を設置し審査を付託した。

委員長の審査報告は、「原案を可決するもの」であった。

（P2、3関連記事掲載）

反対討論　中尾議員

同和対策費の解放同盟支部への補助金について。

賛成討論　藤原議員

差別がある限り必要。

賛成討論　上川議員

見直しされてきている。

賛成討論　前住議員

学力からも差別がある。

賛成多数で原案を可決した。

その他

◆公の施設の指定管理者の指定（若桜町立多目的集会施設）

鳥取いなば農業協同組合を引き続き、指定管理者として指定する。

多目的集会施設（JA2階部分）

◆公の施設の指定管理者の指定（若桜町活性化施設）

有限会社若桜農林振興を引き続き、指定管理者として指定する。

若桜町活性化施設（味工房）

◆公の施設の指定管理者の指定（道の駅若桜・桜ん坊）

財団法人若桜町観光開発事業団を引き続き、指定管理者として指定する。

以上3件の指定管理期限は、平成26年3月31日迄とする。

◆工事請負契約の変更契約の締結

若桜町情報通信基盤整備工事（ブロードバンド）契約金額を実績により減額する。

7億8225万円
←
7億3658万円

◆若桜町有土地の貸付

若桜木材工業団地敷地を、若桜木材協同組合へ平成23年度より5年間、年額50万円で貸付ける。

若桜木材工業団地

平成22年度補正予算

一般会計

◎額の確定（地方交付税等）により2億4198万円を追加し、33億2142万円とした。

有害鳥獣駆除対策　800万円
公共施設外国語表示　315万円
道路維持費（除雪対策）　1270万円
生涯学習情報館運営事業備品購入費（移動図書館車等）　758万円
一般企画備品購入費（電気自動車購入）　429万円

特別会計

◎平成22年度国民健康保険事業特別会計

実績見込みにより既定の歳入歳出予算から467万円を減額し、予算総額を5億73万円とした。

◎平成22年度老人保健事業特別会計

実績見込みにより既定の歳入歳出予算から330万円を減額し、予算総額を42万円とした。

◎平成22年度介護保険事業特別会計

実績見込みにより既定の歳入歳出予算から160万円を減額し、予算総額を4億9997万円とした。

◎平成22年度簡易水道事業特別会計

維持修繕事業の増額により既定の歳入歳出予算に、402万円を追加し1億441万円とした。

◎平成22年度赤松団地造成事業特別会計

実績見込みにより既定の歳入歳出予算から255万円を減額し、予算総額を795万円とした。

◎平成22年度財産区造林事業特別会計

繰越明許費規定により327万円を繰越した。

◎平成22年度住宅新築資金等貸付事業特別会計

実績見込みにより既定の歳入歳出予算から181万円を減額し、予算総額を85万円とした。

入居者が増えつつある赤松団地

議員提出議案

議員提出議案が上程され原案を可決した。

▽TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に参加しないことを求める意見書

平成23年3月10日の本会議において総務産業委員会に付託され、慎重審議を行った結果、TPP参加は日本において輸出関連産業の推進派と農林水産業を中心とした慎重派のそれぞれの主張があり国論を2分する大きなテーマである。鳥取県においても参加した場合、農業分野を中心に相当額の影響が出ると試算されており、国内の一次産業を守るべきものとして決し、本議会において原案を可決した。またTPPに参加しないことを求める意見書を、内閣総理大臣、他関連大臣、衆参両院議長へ提出した。

臨時会

（平成23年1月24日）

平成23年第1回若桜町臨時会が開催され、町長から提出された3議案は慎重審議の結果、原案通り可決した。

◎平成22年度若桜町一般会計補正予算

予算の総額に8383万円を追加し、総額を30億7945万円とした。

庁舎等財産管理（庁舎修理）　1573万円
商工振興事業（プレミアム商品券）　600万円
氷太くん管理運営事業（デジタルテレビ）　178万円
道路維持費（吉川、高野、三倉線）　1760万円
公民館管理費（消防設備冷暖房等）　1509万円

◎平成22年度若桜町簡易水道事業特別会計補正予算

歳入歳出予算の総額にそれぞれ863万円（拡張改良事業）を追加し、総額を1億40万円とした。

◎若桜町立保育所設置及び管理等に関する条例の一部改正

若桜町立若桜保育所中原分所を廃止した。

廃止になった中原保育所

一般質問 Q&A

3月議会定例会の一般質問は、3月17日に5人の議員が町政の課題について質問しました。
質問の要旨と町長の答弁を要約して紹介します。

詳しくは
若桜町ホームページ ➡ 各課のご案内 ➡ 議会事務局 ➡ 会議録 まで

IP告知端末機
緊急通報システム改善を研究させている

中尾理明議員

Q　今回の端末工事によって、現在の緊急通報システムに変更がないか伺いたいと思います。

小林昌司町長

A　現在の通報装置については、NTTと安全センター共に、光回線を使用した端末への通報試験が実施され、今の装置で機能するとのことですが、光電話は、停電時には使用できなくなります。

Q　停電時に機能を果たさない様では困ります。対処方法はいかがですか。

小林町長

A　緊急の場合、連絡先の設置等、早急な善後策を講ずるよう努力を強めていただきたいと思います。このシステムは、装置保持者に緊急の場合、ボタン1つで登録されている近所の方だとか、中継基地（安全センター）に通報、救急本部などの関係機関に連絡が届き、火事などでは消防署が出向くと認識しています。

そこで、近年このシステムによって対処されたような事例の有無、あればどういう内容なのか伺います。

小林町長

A　緊急事態の場合、通報装置の送信ボタンを押すだけで、安全センターでは24時間、看護師など相談員が対応し、救急車などの出動依頼を行います。また、必要に応じて近所の協力者や家族などに連絡することとなっています。

近年は、毎月60件程度の送受信がありますが、多くは近況を伺う内容で、緊急事態が発生して通報がなされた事例はありません。

Q　なくて幸いです。このシステムは、該当者への近況伺いが重要な役割の1つになっています。これからもこの機能が大事です。

以前、他の自治体、県中部と記憶していますが、安全センターを地元の福祉施設に置かれ、福祉の現場なので、介護福祉士、看護師等、専門家の参加によって、可能な見守りと必要なときの生活援助ができ、弱者に優しい対応がなされているとのことでした。

IP端末機導入を絶好の機会として、現在のシステムの見直しが考えられませんか。

小林町長

A　高齢者所帯などの見守り体制の整備は、重要な課題です。

民生児童委員や包括支援センター、住民の方々の支え合いなど、地域のネットワークによる支援に努めているところです。この端末機を活用し、さらに強めたいと考えています。

現在のシステムを見直し、告知端末を使って、町内で24時間の勤務をしておられる事業所等も想定し、身近に見守りと対処ができる様にならないか、担当課に研究させています。

中尾議員は、この他、職員による集落訪問、TPP問題、防災対策について質問をされました。

設置されたIP告知端末機

道路照明灯
集落間に設置を 道路管理者に要望する

坂本　等議員

Q　集落をつなぐ道路照明灯は、防犯や事故防止だけではなく、住民が安心して暮らすのに欠かせないインフラ整備の一つです。

町道における設置、管理の状況を伺います。

小林昌司町長

A　本町は設置基準を定めていません。

町が設置し電気代を支払っているのは、屋堂羅1号線、若桜駅～国道29号まで、浅井住宅線など、また、町が設置し電気代は組合や自治会で負担、県が設置し町が電気代を負担しているところもあります。

Q　国、県道については、関係機関に働きかけ、町道については、積極的に対応していただきたい。

県道の赤松～来見野間、来見野～諸鹿間、岩屋堂～吉川間、町道クソギ谷線などには1基も無く真っ暗です。

小林町長

A　国、県道については、道路管理者に要望します。町は集落内の街灯整備に助成金を交付します。

㈲農林振興
経営は大丈夫か？ 事業を拡大して

Q　平成23年度から、林業部門が八頭中央森林組合に移行され、経営が危惧されます。

農業部門の事業量、収支について平成21年度実績、平成22年度実績見込みをお尋ねします。

小林町長

A　大口株主という立場で答弁します。

農業部門は、農作業の受託のみです。平成21年度は田植え24ha、稲刈り18ha、22年度も同程度の受託です。収支状況は平成21年度が収入514万円、支出が395万円で119万円の利益、22年度も186万円の利益になる見込みです。ただし、管理的な費用は支出に入っていません。

Q　営業範囲の拡大が検討されていますが、経営方針、採算性の見込みを伺います。㈲農林振興は、本町の農林行政をリードする補完的機関として、その役割は重大です。

小林町長

A　1ha程度の利用権を設定し、ナタマメ、アワ、タカキビ、エゴマ、ソバ等の栽培。鹿、猪等の獣害対策の作業受託も計画されています。

収入は春秋の農作業、農産物の生産・加工、獣害対策の受託、林道の維持管理、スキー場への作業員派遣、活性化施設の利用料・管理料等で2824万円。支出は事業費用が1039万円、社員の給料等管理費を差し引き、28万円程度のプラスになる見込みです。

作業受託だけではなく、農業経営に参入し、リーダーとしての役割を担っていただきたい。

吉川分校
整備構想と管理は 住民による自主運営

Q　今年の整備構想及び維持管理について伺います。

小林町長

A　浴室や調理室などを整備し、宿泊機能を備えた施設としてイベントや世代間交流、都市との交流の促進を図り地域の活性化につなげたい。運営は住民による自主運営でお願いしたい。

因幡和牛
ブランド確立を 支援を約束する

Q　東日本大地震被災者を一時的にでも受け入れてはどうか、吉川分校に限らず全町的な対応として。

小林町長

A　本町で、できるなら受け皿の一つとして考えたい。

Q　今年80頭分の精液補助だけではなく、ブランド化に向け、行政としてもっと協力できる体制が必要である。

町はどのように指導し係わって行きますか。

小林町長

A　畜産の問題については十分理解しました。特産品開発の一つとして、ブランド確立にできるだけの支援をしていくことを約束します。

一般質問 Q&A

詳しくは
若桜町ホームページ ➡ 各課のご案内 ➡ 議会事務局 ➡ 会議録 まで

観光事業
観光協会組織強化での構想は 町から独立した団体へ

中村敏明議員

Q わが町には、その場でずっと生活していれば気づかない、氷ノ山はもとよりSL、民俗歴史資料館など、良い観光資源が多数あると思います。

おもちゃの館など空き家利用の施設整備も進む中、さまざまな組み合わせによって小さな企画、営業など、独自でできる部署が必要だと思います。そういった中、観光協会の組織強化、予算化がされており大変期待する所です。まだ懸案中でしょうが、推進していく上での構想をお尋ねします。

A 小林昌司町長

若桜町の定住人口が減少する中で、交流人口の拡大につながる観光振興は大きな課題です。

若桜をPRする上で、自発的な営業活動や情報発信は、最も重要であると考えています。近年は旅行エージェント等に、取り上げてもらえるようなメニューづくりもして、営業活動を行ってきました。その結果、SL体験など観光客も増加しています。現在は、観光協会事務局でもある役場職員が対応に当たっていますが、他の仕事も持っており、観光のみに専念できる状況ではありません。これらの課題を解決するべく今回、観光協会の組織強化を図るように計画しています。

今後の協会のあり方については、事務局を自ら持つことにより、町から独立した団体としての位置づけが明確になり、行政主導ではなく、民間主導で商業や観光事業等に実際携わっていく方々、事業者が自ら考え行動できる組織を目指してもらいたいと考えています。

観光協会事務局予定施設

接客
マナー向上は 引き続き研修

Q 韓国の平昌郡との交流も始まり、観光事業も軌道に乗っていけば、観光客なども増えてくるのではと予想、期待しています。

現在、接客営業している氷太くん、道の駅などの、施設、料理等は当然重要な部分ではありますが、接客マナーも大変大切なことだと思います。接客の良し悪しによっては、料理がうまくも、まずくも感じ、また来ていただけるかどうか、気持ちの部分での影響がかなりあると思います。

また、若桜町全体のイメージにも影響してくるのではないかと心配しています。町としても当然指導されていると思いますが、もっと徹底的に強化する必要があるのではないか、お伺いします。

A 小林町長

サービス業を営む上で、接客マナーは最も重要な部分となっています。若桜町のような小さな町では、一つの対応によって、その町全体のイメージを決めることになってきます。

氷太くんの研修は、一昨年からワシントンホテルで接遇研修を行っているところです。

道の駅については、自社研修として、接客マナー向上に向けた研修を実施しています。

まだまだ十分ではないと思いますが、今後も引き続き研修をしていく必要があると考えています。

また、役場職員についても同じことで、マナー向上も図っていきたいと思っているところです。

スキー場整備
子育て世代のために！ 家族で楽しめるスキー場へ

前住孝行議員

Q いぬわしリフト下からヒュッテ白樺まで融雪の改善策をお尋ねします。

A 小林昌司町長

取水量の調整ができるようにすることや、横断溝の設置、さらには道路勾配の修正等も考えられます。スキー場関係者の方々に状況等の聞き取りを行い、来シーズンまでには改善策を講じます。

町民が利用しやすいリフトに

Q 乳幼児を連れてスキー場に行った時、子どものおしめを替えたり、休ませたりする場所があればと思います。所見を伺います。

A 家族で楽しめるスキー場にするためにも整備に向けて検討します。

小林町長

リフト半額
高校生まで半額にしては？ 議論してみます

Q もっと町民が頻繁に利用できる環境があれば、町民がもっと身近に氷ノ山を感じることができるのではないか。大山町では、高校生まで無料でリフトに乗れます。このことについての町長の所見を伺います。

A 小林町長

こうして景気がよくないものですから、収入が少ないという問題も浮かんできておりまして、いろいろ議論をこれまでもしている状況です。

Q シーズン券に限り、半額にしてはどうでしょう。他の町営の施設、プールや温泉などは、町民は半額です。

A 小林町長

町内外の料金設定の差別化は、本当は望ましいことではないという具合に考えていますが、子育て支援というようなことも加味したことができないか議論してみたいと思います。

とうがらしみそと雑穀もち

道の駅
住民参加型のイベントをしては？ まだ、早い。

Q オープンから現在までの道の駅の住民参加者数の傾向を教えてください。

A 小林町長

道の駅で管理している物品提供者のうち、町民の方やグループ数は170名と約6割を占めている状況です。初年度には多くの登録をいただき、その後も少しずつ増え、各登録者の販売品も少しずつ増えてきている状況です。

Q 各集落でも主体的にできるように「集落対抗スローフード選手権」なるものを開催してはどうでしょう。

A 小林町長

道の駅の役割としては、若桜町の産物を広く消費者に届けることであります。集落単位であろうと個人であろうと、平等に扱うべきと考えます。また、道の駅の経営状況も厳しい状況でありますので、まだちょっと、早いと思っています。

Q 学校給食センターという位置付けの「学校」を外してもらって、道の駅のお客さんにも限定10食などで、本日の給食をワンコインで食べてもらうようなことができないのでしょうか。

A 小林町長

学校給食施設としての補助事業の活用を考えていまして、学校給食法に基づく施設運営を想定しています。

ただ、道の駅で学校給食と同様のメニューなら法令には触れませんので、十分工夫してみることもできると考えます。

小中一貫校調査特別委員会調査研究報告

現中学校特別教室を小学生用教室に！ 南側空き地に特別教室を新築！！

３月議会定例会中に、小中一貫校調査特別委員会を開催しました。中学校建設時の起債一括返還の必要がないこと、改修も補助の対象になるということを確認し、二転三転した設計案を承認いたしました。

主なる改修箇所は、次のとおりです。

１階

職員室の増築。会議室を相談室、女先生の更衣室に。
多目的ホール（さくらホール）を仮特別教室に。
相談室廃止で保健室を拡大。
家庭科室を少人数教室と普通教室に。
技術室を普通教室２つに。
理科室を特別支援教室２つに。音楽室を普通教室に。

新築予定地

新築

１Ｆ　技術室、家庭科室、トイレ、
　　図書室兼多目的室（放課後児童クラブ室兼用）。
２Ｆ　音楽室、理科室、トイレ。

その他、若桜材を使うことなどを確認いたしました。

請願書・陳情書審査結果

３月議会定例会で審査した請願・陳情は、採決の結果、次のとおり決定しました。

番　号	受理年月日	件　名	陳情者等	付託委員会名	審査結果
陳　情 第25号	平成22年 12月13日	TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)に参加しないことを求める陳情書	鳥取いなば農業協同組合 代表理事組合長 近藤　儀徳	総務産業 常任委員会	採　択
請　願 第１号	平成23年 ３月３日	年金受給資格期間の短縮を求めることに関する請願	全日本年金者組合 鳥取県東部支部　支部長 平尾　修 紹介議員　中尾理明	教育民生 常任委員会	不採択

◎ 請願・陳情

請願・陳情は、町民の皆様が町政などについての要望等を、直接議会に書面で提出できる制度です。議長宛に議会事務局へ提出してください。提出された請願、陳情は関係の常任委員会で審査の上、本会議で採決し採択された請願・陳情は行政に生かされます。

詳しくは、議会事務局（電話82－2212）にお問い合わせください。

一般質問 Q&A

詳しくは
若桜町ホームページ → 各課のご案内 → 議会事務局 → 会議録 まで

子宮頸がん検診 HPV検査の併用実施を県と相談したい

上川裕見子議員

Q 子宮頸がんの原因がヒト・パピローマウイルス（ＨＰＶ）の長期感染であることが分かり、ワクチンが開発され、女子中学生への子宮頸がんの予防接種が、公費助成されるなど、予防施策に変わりつつあります。

20歳以上の人は、自己負担が軽減されましたが、今までどおり、細胞診検査による検診です。これにＨＰＶ検査を加えることによって検査精度がほぼ１００％になると言われており、前がん状態での発見が可能で、簡単な治療でほぼ１００％完治するなどのメリットがありますが、導入のお考えはありませんか。

小林昌司町長

A ＨＰＶ検査を併用すれば、精度が大幅に向上するとの報告もあります。しかし、厚生労働省が死亡率減少効果の有無を判断する証拠が不十分との理由で進めないとする方針を公表していますので、引き続き、受けやすい体制づくりに努め、啓発をしていきたいと考えます。

Q 島根県は併用検診を実施しており、20代、30代の受診者が2倍、検診が3年毎でよいこともあり、費用面でも効率がよくなったと健康推進課が伝えています。

がん検診の焦点を死亡率減少ではなく、予防と女性の健康と考え、先進的に取り組んでいただけたらと思いますが、検討の余地はありませんか。

小林町長

A 県の方と充分に相談をしたいと思います。

まちづくり 大自然を町の自慢として民間と一緒になって

Q 先日、私は氷ノ山の三の丸コースを散策し、皆で感動を分かち合いました。案内人の手腕によって、安全で楽に登山を楽しめることを知ってもらい、自然を活かしたまちづくりに取り組んでいただきたいです。

ハードばかりではなく、もう少しソフトの部分にも目を向けた取り組みを考えてはいかがでしょうか。

来年度予算説明では、観光協会を独立させて事務局長を置き、若桜を売っていくとの意気込みをお示しされましたので、新しい観光商品を作っていただきたいと思います。

氷ノ山三の丸散策

小林町長

A 観光振興には、人と人との触れ合いが大切であり、案内人などの充実も欠くことのできない要素です。ハード整備には限界もあり、登山ガイドなど、ソフト面の充実を民間と一緒になって考えていきます。

施政方針 各課の連携が必要では？意識して推進したい

Q 「教育環境や子育てが充実した町」の中で、幼保一元化を考えておられますが、教育委員会が若桜町公民館の方に事務局が移るというような計画もある中、現在、幼児教育は町民福祉課と教育委員会に分断されていますが、組織の改編はありますか。

小林町長

A 幼保の一元化の問題は、５、６年はかかると思っています。福祉、教育という縦割り組織でなく子どもを対象とした組織とするための視点が重要であると認識しています。現時点では町民福祉課が主体となって協議研究に取り組み、具体的に方向性がまとまった時点で担当部署を決めたいと思います。

委員会活動報告

総務産業常任委員会

2月28日～3月1日　3月議会定例会に向けて

企画財政課

説明 ●町内の公共施設に外国語表示板を設置する。
●電気自動車を購入し、2ヵ所に充電設備を設置する。

Q 外国語表示は何カ国か。
A 英語、中国語、韓国語の3カ国。
Q 電気自動車は、どの車種を想定しているのか。
A 三菱か日産。
意見 できるだけ大きな乗用車タイプがよいのでは。

総務課

説明 H23年度事業で、住民基本条例の策定、10月7日にＮＨＫ公開録音を計画している。
Q 「若桜をどげえするだあ懇談会」のビジョンは。
A 町長の諮問機関で、町外の7名の方に提言をしていただき、町政に反映したい。
Q ハザードマップの完成予定は。
A 3月末に完成。集落説明会で、一時避難場所の確認をしたい。
意見 ＩＰ電話の防災カメラの画面に、設置場所の表示ができるようにしてはどうか。

税務課

Q 町民税の減は人口減と所得減のどちらが大きいのか。
A 退職者による所得減は例年通りだが、転出が一番多く40人ある。
Q 国保会計の税率改定はするのか。
A 改定は予定していない。

産業観光課

説明 ●議案の指定管理関係は、多目的集会施設・味工房・道の駅の3件。
●有害鳥獣捕獲の報償費追加補正は、3月末までに鹿・いのしし1,000頭捕獲できる見込み。
意見 農林振興問題は林業部門をどうするかで、事業全体が不安定になるのではないか。
Q 林業部門をやめるのなら、現在雇用している人は。
A 八頭中央森林組合の期間雇用となる。

町土整備課

説明 大型除雪車と、小型除雪機の購入を計画している。
Q 小型除雪機は、集落によって使われていないところもあるのでは。
A 使われていない実態もあるので、調査をする。

教育民生常任委員会

2月22日　文化財保護について

教育委員会

意見 鬼ヶ城保存管理計画で専門家の意見を求めたが、実現する意欲がない。積極的に行わないと、事業が前に進まないのでは。
説明 文化財の保護と活用は、審議会の委員だけで考えるのはどうか。国も文化財の利活用と言われてはいる。鬼ヶ城は木の伐採など、観光客に対する環境整備、外国語看板、トイレの設置を保存管理計画に入れている。
意見 倉吉市のまちづくりは、次長が10年かけ、一生懸命取り組まれている。専門家が必要だし、教育委員会のリーダーシップが必要だと感じている。行政主導でされる気持ちはあるのか。
説明 現時点は考えていない。町長部局、各課連携したい。実際、宿の協力がないとできない。まちづくり協議会でもうまくいっていない。一つずつ解決したいと考えている。

3月2日　3月議会定例会に向けて

町民福祉課

Q 老人クラブ助成は、組織づくりの結果が出ていない。H23年度予算計上はどうか。
A 老人クラブ会長にも組織するように相談している。H23年度から県の補助対象が、50人以上から30人以上となったので、組織していただくよう働きかけていく。
Q 介護保険の受給者は、認定を受けても給付を受けない人が居宅介護で減っている。介護予防に積極的に取り組まれているのか、その後どうなっているのか。
A 数字的だけの把握だが、認定受給者証は減っている。認定は受けて、使っていない人と入院された方もいる。

教育委員会

Q 通学路の除雪の体制が悪い。事故が起こるまでに対策をとるべきではないのか。
A 冬期間はバス通学が基本だが、宿内の消雪装置も調子が悪かった。バス停の除雪要望もあり、現場も見たが、良い方法を考えたい。

教育民生常任委員会調査研究報告

1．調査年月日　平成23年1月25日（火）
2．参　加　者　議員5名、議会事務局職員1名、町民福祉課職員1名
3．調 査 内 容

(1) 倉吉市役所‥‥倉吉打吹玉川伝統的建造物群保存地区について

伝統的建造物群保存地区(伝建地区)　H10/12/25　文部省選定告示

感想

住民主導ではなく、市と教育委員会主導の保存地区づくりとの説明を受けた。節目、節目に「住民説明会」が行われるなど、選定にいたる30年余りの様々な努力の結晶でもあると思った。

このような事業に対する指導的役割を担うことのできる人材の重要性を痛感した。

年間40万人の観光客が訪れるようになり、当日も雪の中、観光客が行き交う姿に感心した。現在、わが町も新たな「まちづくり」に向かって模索しているが、一つの選択肢として、「伝統的建造物群保存地区」選定を目指すならば、町、教育委員会の強い決意の元に文化財審議会での深い検討、町民ぐるみの意思統一が図られなければならない。今回の視察は、文化財を活かした「まちづくり」の大事な点、取り組むに当たっての留意すべき点を学ぶことができた。

(2) 北栄町役場‥‥ごみ処理等生活環境改善の取り組みの実態

北栄町環境保全の取り組み　H18/12月　環境基本条例制定

感想

全国表彰受章にも現れている様に、非常に意欲的な生活環境行政が取り組まれていると思った。担当課長からは、「国のCO_2削減目標(H32年→25%削減)に対して、北栄町はH28年までに24%削減の目標を掲げている」ことを強調され、国の目標により早く到達し、上回ろうとする意気込みが伝わってきた。個々のごみ処理などについては、多種多様な施策が試みられ、若桜町として、学ぶべき点が数多いと感じた。

韓国平昌郡視察報告

平成23年2月13～15日

昨年、友好交流協定を結んだ韓国平昌郡に、今度は若桜町訪問団（小林町長団長外7名）の団員として、岡本議長と藤原副議長が、イ・ソンレ郡守、正副議長を表敬訪問し、熱烈な歓迎を受けました。

目的は、議会同士の友好交流を深め、お互いの活性化に寄与するため、今後議員の相互訪問活動を実施することを確認するものでした。

平昌郡では、第16回雪花祭り（30万人集客）が開催中で、華やかな賑わいでした。鳥取県も出店しており、若桜町のカタログが一番人気だとうれしい話をいただきました。併せて、2018年冬季オリンピック招致活動中で、多数のＩＯＣ委員も、オリンピック会場予定地を視察されていました。今年7月には、開催地が決定で、わたしたちも平昌郡が当選されることを願い、応援の気持ちを伝えました。

今回の訪韓は慌しい日程で、交流懇談会・雪花祭り会場見学以外は、車窓から冬の風景を眺めるだけでした。その間、韓国の人々の力強い行動力に接し、若桜町議会も力強く活動しなくてはと、交流の意義の一端を再認識しました。

口蹄疫の義援金を贈る岡本議長

わたしの想い

このコーナーは、町民みなさんからの議会、議員や議会だより等に関わる要望や率直なご意見を紹介しています。

温故知新で若桜の観光を

梶原　明さん（中町）

私は、二十歳のころから、バイクに乗り各地をツーリング（旅）をしてきました。旅先に求めるのは、その土地独自の名所、食、温泉が中心です。

そんな経験から、若桜には、観光資源が沢山あると思います。大自然、独自文化、温泉、各名所、スキー場、渓流釣りのできる川など…。

これらを、観光客、ライダーは求めています。

大自然や埋もれた歴史を体感し、食事、地酒と癒しを含める魅力、資源があります。しかし、点在していて街を知らないと気軽に行けなく、残念に思っています。

当たり前の事を見直し、知られざる魅力を発掘する。そして、点在する名所を、線で結び、町内を満喫するための情報提供をする。

また、昔から家に伝わる家庭料理、ご飯の友などの食の開拓も必要です。

独自のアイデアで全国にアピールし、地域ぐるみで、観光客を受け入れる事ができるよう取り組んでいただきたいと思います。

温故知新の心で。

前号の山根栄真さんの記事の中で「田臥勇太」の記載が間違っていました。おわびして訂正します。

安心安全な通学路に

河村　徹さん（西町）

平成24年度より、小中一貫校が実施されようとさまざまな部会が開かれ、いろいろな事が少しずつ決まってきています。小中一貫校という前例の無い取り組みをやろうとしている若桜町、小中学校の先生、保護者、地域の皆さん方。

自分自身も小中一貫校の準備をしている一人として、今一番気になっているのは、通学の事です。

現中学校に移れば、通学距離が長くなる子どもがほとんどです。低学年の子どもがあの距離を歩くのは、とても大変だと思います。

そこで、地域の皆さんにお願いがあります。登下校時に家の前に出て、子どもたちを、元気づけて欲しいのです。皆さんに声かけをしてもらう事で、防犯にもなります。

安心安全な通学路、未来ある子どもたちを、見守っていただける若桜町になるようお願いいたします。地域の方の力なくして、小中一貫校の成功なしと、私は思っています。

何とぞよろしくお願いします。

意見をお寄せください
メール：gikai@town.wakasa.tottori.jp
ＦＡＸ：0858（82）2222

あとがき

3月11日に起きた東日本大震災で被害に遭われた方々にお見舞いとご冥福をお祈りいたします。改めて、自然災害の怖さについて考えさせられました。

我が若桜町でもいろいろな災害を考慮して、防災対策を万全にしていくことの必要性も感じました。新しくできたハザードマップを活用して、各家庭からの避難場所を確認したり、物資供給の方法や効果的な情報の出し方をより詳しく検討したりする機会にしてはと思います。

議会だより編集委員も二年目に入りました。少しずつ変えてきていますが、多様な意見をいただき、紙面の充実をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

議会だより調査特別委員会
委員長　前住　孝行
副委員長　中村　敏明
委員　奈羅尾寿夫
委員　山本　晴隆
委員　岡本　和廣
議長

発行・鳥取県八頭郡若桜町議会　TEL 0858（82）2212　FAX 0858（82）2222　HPアドレス http://www.town.wakasa.tottori.jp
編集・議会だより調査特別委員会　印刷・中央印刷株式会社